



Hiroki Nonoyama



Ryo Ogata



WAKO

若手アーティストに、創作場所を提供し、継続的な活動を支援する取組として2023年に立ち上がった「START Box」。(主催:東京都及び公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京) アトリエで活動する作家の中から10名の作品を展示します。



Junko Awatani

START Box EXHIBITION vol.3

2025.2.11^{TUE}-16^{SUN}

12:00~18:00 (14日 [金] は20時まで) 入場無料

YAU CENTER

千代田区丸の内3-1-1 国際ビル1F



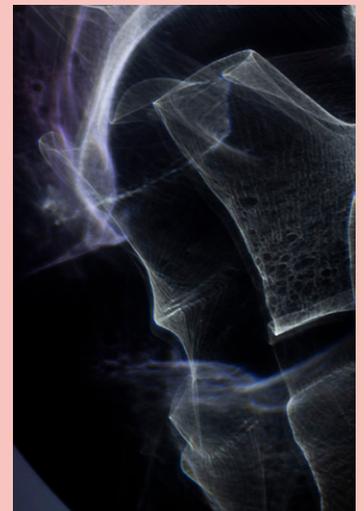
Tomoki Kanamaru



Miho Masaki



Rina Cho



Miko Okada



YUH TAKUNO



Moe Shimada

START Box EXHIBITION vol.3

参加作家

尾形凌 / Ryo Ogata

2001年東京都生まれ。東京藝術大学先端芸術表現科大学院修士一年在学中。日本画や浮世絵、妖怪などに着想を得た作品を制作する。あの世とこの世の狭間に存在する世界を絵画や立体、アニメーションなどを通じて表現。個展に「おじさんin居酒屋」(うなぎ・やきとり鳥駒、2019)「NIRVANA」(digger gallery、2023)など。2024年藝大アーツイン丸の内三菱地所賞受賞。



撮影：竹之内祐幸

野々山裕樹 / Hiroki Nonoyama

1991年東京都生まれ。学習院大学経済学部経済学科卒業。サラリーマンの傍ら、独学で制作を開始。記憶と歴史、映像メディアの探求をテーマとしている。平凡な日常の風景を出発点に、写真と映像を通じて多層的な視点や時間軸を表現し、場所のイメージを再構築する。2021年清里フォトアートミュージアムに作品収蔵。



岡田舞子 / Miko Okada

1993年岩手県生まれ。日常の観察から生まれる微細な気づきを起点とし、それを独自の視点で再構築することで、風景や物事に新たな意味や解釈を与える写真作品を制作する。主な参加に2020年T3 Photo Festival、2023年浅間国際フォトフェスティバルなど。



正木美穂 / Miho Masaki

東京都生まれ。多摩美術大学大学院美術研究科油画研究領域修士。"絵画とは布であり、かつ皮膚のような表層である"との考えに基づき、作品を制作している。近年ではキルティング生地のように画布を縫い、彩色した絵画「キルティング・シリーズ」を制作している。



金丸知樹 / Tomoki Kanamaru

1999年東京都生まれ。2023年武蔵野美術大学クリエイティブイノベーション学科卒業。ある地点からある地点へ行く際の間地点に介入することを「治療」と捉え、絵画、映像、彫刻などのメディアを用いて制作。実際に自身がキュレーションした展覧会「駅を耕す」において市ヶ谷駅地下通路で行った展示などで「治療」を実践している。主な展覧会に「鳥は何羽いますか?」(LOOPHOLE、東京、2024)など。



Junko Awatani

1984年大阪府生まれ。2009年京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科建築設計学専攻修士。建築設計・ランドスケープデザイン事務所勤務を経て、2010年代後半より作品制作を開始。微かな存在感の集積による能動的な風景画の手法を模索している。近作に、色付けた微細な紙片で風景をつくりだす「Sakutei」(2022-)や衛星写真をもとにその場所で採れた土絵具で上塗りする「Earth Painting」(2024-)など。



島田萌 / Moe Shimada

1995年東京都生まれ。東京藝術大学絵画科油画専攻卒業。デジタルエフェクトを施した写真をモチーフに描くオイルペインター。肉眼では見えない色彩や歪みも、スマホやパソコンなどのデジタルツールが普及している昨今の「新しいリアル」という考えの元、主に人物画を得意としてきたが、近年ではモチーフとする対象を花や陶器、ガラス細工の置物などにも拡張させ、緻密な描写と色彩豊かな表現の幅を広げている。



WAKO

1994年生まれ。神奈川県藤野町育ち、東京在住。2020年東京大学・大学院教育学研究科修士課程修了。2023年美術学校修了。COVID-19のパンデミックのなかで制作を開始。意味を弱くするために、毎日のすぐそこに転がっている事物から絵を立ち上げ、ノーリーズンに描いている。



趙里奈 / Rina Cho

1989年北海道札幌市生まれ。東京を拠点に国内外で作品制作・発表を行う。2019年頃から油絵、インスタレーションの制作を始め、コロナ禍での自宅隔離を契機に3DCGを用いた仮想空間の制作を始める。主な展覧会に「DAISY WORLD」(エスバスニーマイヤー、ノリ)、「Gunakeion」(FRAC イルドフランス、ノリ)、「You had me alone」(Talionギャラリー、東京)など。



YUH TAKUNO

鳥根県生まれ。偶発的で抽象的な表現を好み、ペインティング、グラフィックアート、ミューラルなどの方法で作品制作を行う。近年は腕や手など自身の身体(肌)を用いて表現を展開。主に展示会への参加や、企業や施設への作品提供などを行い、出逢いに恵まれながら表現を続けている。



START Box × YAU 関連イベント [参加無料・要予約]

▼オープニングイベント 2月11日 [火・祝]

14:00~15:00

現代美術を取り扱うギャラリー「LEESAYA」の代表 李沙耶をゲストに迎えてトーク+ディスカッションを開催します。



予約フォーム

▼トークイベント 2月16日 [日]

①14:00~15:00 尾形凌 / 岡田舞子 / 金丸知樹 / 島田萌 / 趙里奈

②15:30~16:30 野々山裕樹 / 正木美穂 / Junko Awatani / WAKO / YUH TAKUNO

長谷川新をゲストに迎えて参加作家とのトークイベントを行います。

アクセス

YAU CENTER

(100-0005 東京都千代田区丸の内3-1-1国際ビル1階)

- JR「有楽町駅」国際フォーラム口より徒歩2分
- 東京メトロ有楽町線「有楽町駅」(D1)直結
- 都営地下鉄三田線「日比谷駅」(B3、B4)直結
- 東京メトロ日比谷線「日比谷駅」(A6)直結



お問合せ | 公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京 企画部
tel: 03-6256-8853 (平日:10:00~18:00)

主催:東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京 協力:有楽町アートアーバニズム YAU



START Boxとは

アトリエ等を確保することが難しい若手アーティストに創作場所を提供し、継続的な活動を支援する、東京都及び公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京の事業です。

2023年4月には、渋谷区笹塚・幡ヶ谷にある都営住宅の空き店舗を活用した創作スペース「START Box ササハタハツ」、2023年11月には、お台場の東京都住宅供給公社の空き店舗を活用した創作スペース「START Box お台場」をオープンし、これまで45名が利用しています。また、オープンアトリエ等による地域やアーティスト同士での交流や、文化イベントによる作品発表の場の提供などを通じて、アーティストの活動支援を行っています。



公式HP



YAUとは

NPO 法人大丸有エリアマネジメント協会、一般社団法人大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会、三菱地所株式会社により組成された「有楽町アートアーバニズム実行委員会」が2022年2月に立ち上げた、まちがアートとともにイノベティブな原動力を生み出すための実証パイロットプログラムです。アーティストの稽古場や制作場所、様々な領域に開いたワーキングスペース、トークイベント「YAU SALON」を実施するなど、ビジネス街においてアート&ビジネスの核となるコミュニティ形成に取り組んできました。2023年11月より国際ビル7階に移転、24年3月に1階の路面区画にオルタナティブスペース「YAU CENTER」をオープンしました。今後も街との接点を広く持つことで「アートアーバニズム」を継続・実践し、大丸有におけるアートとビジネスをつなぐ永続的な活動体となることを目指しています。

